

<資格講習会・講演会・見学会 関連記事>

「建築構造調査士資格講習会」 <2014年11月5日（水）掲載>

建築構造調査士の認定に向け資格講習会

2014/11/5 東京版 掲載記事より

構造調査コンサルティング協会（赤木久真会長）は10月29日、同協会が認定する「建築構造調査士」の認定テキスト講習会を開いた＝写真。

同調査士は、建築物の耐震構造体の実態を正しく捉え、調査・報告できる調査技術者。現在、200人以上が合格し、構造物調査業務などに携わっている。

建築構造調査士運営委員会の山下賢治委員長は「今後発生が予想される自然災害への対応に向けて確かな技術と知識の蓄積が必要。社会インフラの健全な維持・保全に貢献するため、技術が共有できる他団体や事業主体と連携し、資格の拡大を図りたい」と話した。

講義では、鉄筋コンクリート・鉄骨構造の調査技術、天井などの非構造部材、基礎と地盤についてそれぞれ解説した。



「基礎構造の地震被害と耐震診断」講演会 <2014年11月10日（月）掲載>

基礎構造の地震被害など講義

2014/11/10 東京

構造調査コンサルティング協会（赤木久真会長）は7日、調査実務技術者を対象に「基礎構造の地震被害と耐震診断」をテーマに講習会を開いた。

講師は、地盤振動や建築基礎構造に精通する千葉大学の中井正一教授＝写真＝が担当し、「東日本大震災を契機に地盤に対する関心が高まっている。災害による被害実態を知ること、一般社会への認知を広げてもらいたい」と話した。

講習では、被害調査を実施した文教施設や官庁の営繕施設、民間施設などの建物について、杭の種類や被害レベル、表層地盤構造などを解説したほか、震災後の建物の継続使用や耐震診断について講義した。



小開口補強効果の検証実験を見学

2015/3/10 東京版 掲載記事より

構造調査コンサルティング協会（赤木久真会長）は6日、工学院大学八王子校舎で「枠付き湿式パネルの小開口補強効果の検証実験見学会」を開いた。集合住宅などの耐震補強でバルコニーに面した壁を増し厚補強する際の効果的な方法について検証した。

見学会には会員約30人が参加し、無開口の試験体1体、補強方法を変えた有開口試験体4体を試験・検証したほか、講師を担当した近藤龍哉教授が実験の目的や加力実験の状況などを解説した。

集合住宅などを耐震補強する際には、エアコンと室外機をつなぐ小開口部の耐震強度が落ちる可能性があり、鋼管パイプの埋め込みや鉄板を張り付けることで強度を上げるという。同協会企画事業委員会の三好祐治委員長は「今後の耐震補強設計の際に、開口の配置や補強方法を検討する参考にしてほしい」と話した。

